

# 平成28年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 紀之川中 学校
校長氏名	加藤 正彦
作成日	平成 29 年 2 月 22 日

## 1 教育目標

あなたがいてよかったと言われる人になろう

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	地域の人材を活用する。地域の人々や保護者が、いつでも学校を訪れることができるような開かれた学校づくり。情報を積極的に発信する。	道徳の時間の充実を図る。学校行事等を通じて、豊かな体験活動を推進する。教師と生徒、生徒同士の人間関係作りに努める。	学力の課題を明らかにし、指導方法の工夫改善に努める。基礎・基本の定着を推進する。特別支援教育を充実させる。キャリア教育を推進し、将来の生き方を考え、進路選択ができるようにする。

取組の状況【D】	学校行事や総合的な学習の時間において、地域の人材を積極的に活用する。学校行事や授業参観、学校開放月間等に保護者や地域の人々の参加を促す。地域の協議会等への参加を積極的に行う。	道徳の授業を学校運営の柱の1つとして位置づけ、さらなる充実を図る。文化祭や体育祭等の学校行事を通じて生徒相互の集団づくりの中で心を育てる。挨拶運動等を通じて教員と生徒の交流を行う。	学びの共同体による授業改善を推進する。朝の読書活動を学校全体で取り組み、学習意欲の醸成につなげる。少人数指導を行い学力の定着を図る。
(取組の成果と課題)【C】	文化祭において地域の方々の作品発表の場を提供でき、生徒との交流が図れた。職場体験、若宮ガーデン等で多くの地域の方々のお世話になったが、積極的な地域人材の活用は、残念ながらできなかった。	道徳では、講師を招聘し研修を行った。文化祭や体育祭では集団作りを行い、各学級では教室掲示などにも工夫がみられた。朝の挨拶等は挨拶運動等を通し、生徒の間に定着してきた。	学びの共同体による授業改善はあまり推進できなかった。朝の読書活動は自主的に行う体制が定着するまでには至らなかった。2年生数学科で少人数授業を行い、生徒の興味関心を高められた。
次年度に向けての改善方法【A】	学年便り、保健便り等の配布を通じ、保護者地域の方々への学校の活動を知ってもらう取組を継続する。学校開放月間や学校行事への地域の方の参加を促す。	道徳の授業をローテーションで行うだけではなく内容をより充実したものにするともに、評価方法等も含め実践研究する。朝の挨拶運動を教師中心ではなく、もっと輪を広げる。	学び合いの授業づくり等アクティブラーニングを取り入れた授業の研究を進め、自主的な学びの育成に努める。朝の読書の充実を図る。

## 3 その他の課題

生徒指導面に関しては、生徒指導専任を中心に取り組んでいますが、生活や学習の規律や意欲を持たせる指導を個々に応じて取り組んでいく必要があります。また、施設面で北館が老朽化してきており計画的な改善が必要です。